



富士山麓の鹿

「憧憬富士」これは2006年に東京の写真展ギャラリーでの個展の題名である。信州富士見町に生まれ育ち、絵画好きの少年時代を過ごす。富士山に憧れ、それを画用紙に描きつづけ、やがては画家になる夢を抱いた思い出を持つ。写真界に身を置き風景写真とは別の道を歩んだが、富士山への思いが忘れがたく、暇を見つけては富士と山麓の美をカメラに収め30年余。今回お伝えする日本鹿であるが、2014年4月、原生林の光景を映像化するため林の中に目を向けると二頭の鹿の目と私の目が合い、咄嗟にシャツターを切った。昨年は雪が多く融雪も遅かった関係もあり、一合目付近の河口湖創造の森近くまで餌を求めて姿を現わしたようだ。山麓に生息する鹿の個体数を山梨県庁、みどり自然課に問い合わせると「北麓地区だけの2013年統計で8847頭を数える」という。世界遺産に登録され、自然環境の大切さを合わせ持つ富士山麓の自然と動植物の共存が永遠であってほしい。

(写真・文 樋口健二)